



現在、町内のこどもセンター・小学校・中学校・高校で給食器として使用されているオケクラフトですが

誕生当初 全国でも木製の給食器はめずらしくまた毎日使用される給食の器に軟らかい「マツ材」を使用したオケクラフトは耐久性や耐熱性などクリアしなければならぬ課題が多くありました

それでも

「木のまわ」の子ども達が

地域の素材を使用した器を

使うことができるようにと

様々な課題に取り組みました

今月号のあれこれでは

木製学校給食器を導入するまでの

オケクラフトの過程についてお伝えしていきます

オケクラフトの挑戦



木製給食器導入へ

きほんのおはなし

オケクラフトは、「日常の生活の中で使われ、試され、発展する」ことを目標に、そして置戸の素材を使った美味しい料理が盛り付けられることを願って、誕生と同時に木製学校給食器の試作が進められました。

1983年に誕生したオケクラフトは、翌年「白い器オケクラフト展」にて、はじめて町民に披露され、そこで【木製学校給食器のモデル】も発表されました。

オケクラフト誕生から2年後の1985年。小規模校での試験導入として、秋田小学校から木製学校給食器の試用がはじまります。



人と、木と、おけと

OKE
CRAFT
オケクラフト

木製給食器導入のながれ

1983年 (S58)	1 1月	白い器展開催 (@東京日本橋高島屋)
1984年 (S59)	1月	お椀耐久テスト開始
	2月	第一回白い器オケクラフト展 【木製学校給食器モデル発表】 (@置戸町ファミリースポーツセンター)
	6月	木製学校給食器試作委託
1985年 (S60)	3月	木製学校給食器試作完成
	4月	木製給食器→秋田小学校意見集約
	5月	木製給食器→40セット製作発注
	7月	木製学校給食器完成
	8月	秋田小学校試用開始
1986年 (S61)	8月	椀・パン皿リフォーム (塗装)
1987年 (S62)	7月	お盆リフォーム (着色塗装)
	8月	椀、パン皿 (素材・形状の) 改良型導入
1988年 (S63)	4月	森林工芸館開館
	8月	お盆 (素材・形状の) 改良型導入
1989年 (H 1)	1 1月	勝山小学校モデル協議 (磁器図案他)
1990年 (H 2)	2月	勝山小学校試用開始・給食試食会
1992年 (H 4)		境野小学校【楕型ボール】導入 置戸小・中学校【パン皿】の部分使用 境野小学校【パン皿】の導入
1993年 (H 5)		
1994年 (H 6)	6月	給食器の一斉変化 (置戸タイムズ紙参考！)

ながれのいろいろ



【第一回 白い器展の様子】

◎エゾマツ・トドマツを材料にお椀2個、大皿、小皿、箸、小皿箸置ききのセットを発表



↑平成二年資料参考↓
お盆
椀大
椀小
箸置き皿
ニレ
エゾマツ
ハナイタヤ
カラマツ
エゾマツ
秋田小学校



お盆
皿
小皿
中椀
小椀・井・深皿 磁器
セン
エゾマツ
エゾマツ
勝山小学校

◎給食器は、安全性・耐久性・使い易さを追求する中で、【プレポリマー】を使った木材樹脂含浸法、ポリウレタン塗装が選択されました。

◎【プレポリマー】は文化財保護のために開発されたポリウレタン塗料をベースに、木製食器用の塗料として発展させたもので、次のような特徴があります。

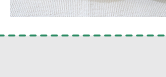
- ① 木材軟質の強化
- ② 耐水性
- ③ 耐摩耗性



お盆着色塗装



お盆形状変更



お椀素材変更

◎勝山・境野・置戸小学校

- ① 飯椀・汁椀・仕切皿・小皿は従来同様メラミンを使用…形と柄が一部変更
- ② 井…強化磁器へ変更
- ③ パン皿…オケクラフトへ変更
- ④ カレー皿…強化ガラスへ変更
- ⑤ お盆…ファイバーグラス製へ変更

◎秋田小学校…従来：クラフトの飯碗と井を兼用⇒麺の時は器が小さいことから井を強化磁器へ変更

◎置戸中学校…従来：食器はアルマイトとステンレス・お盆なし⇒置戸小学校と同様へ変更

2009年 (H21)

- 4月 統合置戸小学校の設立 — 旧置戸小、境野小、秋田小が統合
- 統合置戸小学校へ新たな給食器導入 — 飯碗、汁椀、パン皿、角盆のセットへ

2011年 (H23)

- 4月 勝山小が統合置戸小学校へ統合

2014年 (H26)

- 置戸高校が給食器にオケクラフト導入 — 生徒への給食提供に伴い採用 (カバ材)